

学会員各位

日本甲状腺外科学会
理事長 吉田 明
日本内分泌外科学会
理事長 松田 公志
甲状腺癌薬物療法委員会
委員長 鈴木 眞一

甲状腺癌治療における診療連携のご案内

謹啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本における甲状腺癌の治療法としては、外科治療、放射性ヨウ素内用療法、甲状腺刺激ホルモン抑制療法、放射線外照射治療などが標準的治療であることは学会員のみなさんはよくご存じのことです。甲状腺分化癌は一般的に予後良好ですが、手術不能放射性ヨウ素治療抵抗性の甲状腺癌は予後不良であり、新たな有効な治療法が望まれていました。

このような中、第 III 相国際共同治験の結果を基に、血管内皮細胞増殖因子（VEGF）受容体阻害剤であるソラフェニブが、根治切除不能な分化型甲状腺癌に対する効能追加が本邦にて承認されました。

日本においては、甲状腺癌治療の多くを甲状腺外科医、内分泌外科医が担っていますが、このような新規分子標的薬剤の適切な処方と有害事象のマネジメントのためには、がん薬物療法専門医との連携という選択肢があれば、より安全かつ有効な治療が可能になると考えられます。

そこで、日本臨床腫瘍学会、日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会は、甲状腺癌における分子標的薬剤の適正使用と治療成績の向上、相互の教育の推進を目指し、学会間の診療連携協力（甲状腺癌診療連携プログラム）を推進することといたしました。

学会員各位におかれましては、甲状腺癌の治療成績向上のために、当診療連携プログラムをご活用いただきますようお願いいたします。

詳細は、甲状腺癌診療連携プログラム (<http://www.jsmo.or.jp/thyroid-chemo/program/>) がインターネットで公開されましたのでそちらをご参照下さい。ご不明な点がありましたら、各先生方の所属される地域の日本甲状腺外科学会、日本内分泌外科学会エリアリーダー、サブリーダーまでご連絡下さい。

先生方のご協力の元、本診療連携プログラムが日本のがん診療におけるチーム医療に寄与するものと大いに期待しています。

謹白